

Column

琵琶湖講座レポート

アクア琵琶では、さまざまな分野の専門家によって琵琶湖に関する研究内容を発表する「琵琶湖講座」を定期的開催しています。今回はアクア琵琶の各部門担当者が講師を務めた平成19年度第2回の内容をご紹介します。



演題：「技術研究発表会 治水・利水・水環境」

テーマ1 「瀬田川の治水」

テーマ1では、アクア琵琶が収蔵する資料などをテキストにまとめ、瀬田川の治水の歴史をたどりました。まず、元禄12年(1699)頃の絵図をもとに田上川(現大津川)と瀬田川の下流に堆積した土砂によって、かつては八つの島が存在し、これが河川の疎通能力の低下の理由となっており、度々流域が洪水に見舞われたことが報告されました。さらに、河村瑞賢による初めての瀬田川浚渫や藤本太郎兵衛親子の悲願がかなった天保2年(1831)の大浚渫。そして、明治に入って外国人技師の指導のもとに築造された遊水堤やオランダ遊水堤を紹介。旧河川法の制定によって1900年から淀川改良工事が行われ、瀬田川浚渫や南郷洗堰が建設され、疎通能力が毎秒50m³から200m³に引き上げられて治水事業の大きな一歩となったことが語られました。

テーマ2 「琵琶湖総合開発における滋賀県内利水について」

利水については淀川全体流域面積7,281km²に対し、その53%に当たる3,848km²の面積を誇る琵琶湖が貴重な水源の役割を果たし、流域の経済・産業・文化を支えてきたことから話がスタートしました。また、琵琶湖の利水が洪水・漏水被害と隣り合わせに発展しつつしてきた事実を挙げ、琵琶湖総合開発が治水・利水・環境を3つの柱として昭和48年(1973)3月から行われたことが述べられました。さらに戦後復興に端を発し、産業の発展や人口増加、生活様式の変化に伴い水需要が急速に高まり、琵琶湖の水に大きな期待が寄せられたことが琵琶湖総合開発の起点となったことを解説。瀬田川浚渫、流入河川対策、内水排除、農業取水、上水道への切り替え、港湾整備、航路浚渫、湖岸堤と管理用道路の一体化、都市環境機能の保全・整備としての前浜の利用などの事例が詳しく紹介されました。

テーマ3 「琵琶湖沿岸の魚類の産卵状況の把握」

環境をテーマとしたこの講座では、琵琶湖の水位が上昇した時に水辺に産みつけられたフナやナマス、コイなどの卵が人工的な水位操作によって干上がることを防ぐ取り組みと産卵調査の内容が報告されました。琵琶湖湖川事務所が主催する自然観察会をサポートする「うおの会」の会員である中尾が、従来の魚類調査に「どこで卵を産んでいましたか」「仔魚を見ましたか」「産卵行動を見ましたか」などの項目を追加することによって多くの市民から貴重な産卵情報が寄せられたことを報告。それをもとに分かってきた水位上昇と産卵の関係を発表しました。今後は琵琶湖全域から産卵情報を収集するとともに琵琶湖湖川事務所と連携し、環境に配慮した洗堰操作に反映したいという想いを語りました。さらに、参加者からも活発に質問が寄せられ、有意義な講座の締めくくりとなりました。

参加無料

次回「琵琶湖講座」のご案内

6/19木 午後1時半～3時
 平成20年度 第2回「琵琶湖講座」
 テーマ：琵琶湖の水質とヒトと
 講師：龍谷大学理工学部教授 山彦 先生
 場所：アクア琵琶 1階映像ホール

7/16水 午後1時半～3時
 平成20年度 第3回「琵琶湖講座」
 テーマ：琵琶湖のプランクトン
 講師：琵琶湖環境科学センター主任研究員 一瀬 論 先生
 場所：アクア琵琶 1階映像ホール

ただ今、事前申し込み受付中!!

詳しくは「水のめぐみ館 アクア琵琶」まで。TEL: 077-546-7348

*空席がある場合は当日参加も可能です。



石壁図巻 正田春樹(ひきたしゆん)筆 大津市歴史博物館蔵



膳所神社の旧膳所城本丸表門。

川と湖を味方につけた 天下の水城、膳所城



天下人が重視した膳所の立地

膳所城は、関ヶ原の合戦で勝利をおさめた徳川家康が、戦いの翌年、慶長6年(1601)に築いた城で、なまごんには、水のめぐみ館アクア琵琶スタツフの木原由美子です。私は、滋賀県大津市周辺に古くから伝わる「瀬田川の唐橋からかねぎほし(唐金擬宝珠)」水に映る膳所の城」という唄を知ってから、その美しい風景を想像し、膳所城に興味を抱きました。そこで今回は、膳所歴史資料室運営協議会会長の戸田耕吉さんにご案内いただき、膳所の町を歩きながら築城の工ヒソドや今もこの地にのこる遺構についてお話をうかがいました。



築城の経緯や膳所藩について語る戸田さん。

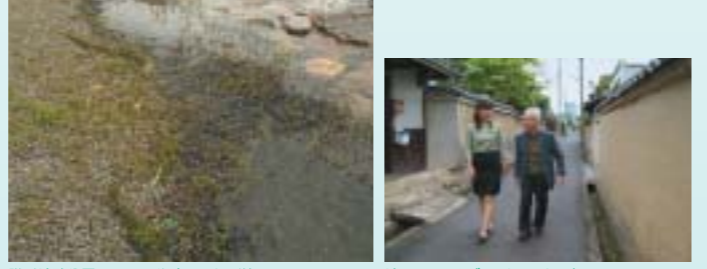
自然を知り尽くした藤堂高虎の手腕



徳川家康による膳所城築城は、後の江戸城拡張や大阪城再建、名古屋築城の先駆けとなつた天下普請の第一号でした。天下普請とは、江戸幕府の号令によって諸大名を動員した土木事業をいいます。築城にあつては、藤堂高虎の手腕が遺憾なく発揮され、それを裏付けるような大がかりな工事からスタートしました。

「今も膳所の町を流れる相模川という川がありますが、藤堂高虎が、まず着手したのは、その付け替え工事でした。実は、膳所城が建つていた場所は、相模川の河口付近の中洲で、その下には固い岩盤があり、城をつくるには打つつけの土地だとなつて伝えられていました。そのため、藤堂高虎は相模川を大きく北に向けて付け替え、もともとの川筋を埋め立てて城へと続く道にしたのです。また、付け替

春の一日、戸田さんと膳所をめぐり、藤堂高虎や普請に携わった人たちが、この地の地形や河川に精通していたことに驚きました。さつと先人たちは、つねに自然に向き合い、自然から大切なことを学んだのでしょう。先人をお手本に、自然を見つめ、多くを感じ取るこの大切さをあらためて実感する素敵な旅となりました。



膳所城跡公園。かつては湖中に石垣が築かれていました。打ち寄せる波の音に往事がしのげられます。

おたより紹介

◎南湖再生への取り組みの記事を興味深く読ませていただきました。琵琶湖は私たちにとって、母なる湖です。一人ひとりが気をつけることだけでも、琵琶湖の汚染は軽減されます。私は夏、ソルトを琵琶湖で楽しみます。「ゴミを捨てないよう、汚さないよう」に気を付けています。 安藤さん(大阪府)

山本さん(滋賀県)